

進んで新聞に親しむ児童の育成 ～日常活動や学習活動での取組を通して～

新富町立新田小学校
講師 谷山 千織

1 はじめに

本校は、2020年度よりNIE実践指定校として指定を受け、2021年度は2年目である。1年目となった2020年度は、児童にとって新聞を身近なものにし、親しむということを念頭に置き、実践を行った。1年間の実践を通して、少しは新聞に親しむ児童の姿が見られるようになったが、ほとんど興味を示さない児童もいた。2年目となる2021年度は、前年度の実践を生かし、より身近なものとして感じ、進んで新聞を手にする児童を育成するために、日常活動や学習活動での実践を行うこととした。

2 学校としての取組

(1) 各社新聞の購読計画

2021年度は、主に4年生を対象に実践を行った。NIEの実践校として配付される新聞を毎日教室に置いた。購読計画は以下の通りである。

新聞名	配達月 (2021年度)					
	9月	10月	11月	12月	1月	2月
宮日	1					1
読売		1	1			
日経			1	1		
毎日				1	1	
朝日					1	1

購読計画を立てるに当たっては、昨年度と同様、児童の家庭で多く購読されており、家庭でも親しむ機会がある「宮崎日日新聞」から購読を開始した。また、これまで新聞を読ん

だことがほとんどない児童も多かったため、購読が始まる9月、そして、10月は1社のみの計画にし、無理なく親しむことができるようにした。

(2) 宮崎日日新聞「宮日こども新聞」の活用

毎週土曜日発行される宮崎日日新聞の「宮日こども新聞」を各学級に2部ずつ配布している。6年生の教室前の廊下には、毎週宮日こども新聞が掲示されており、6年生だけではなく廊下を通る児童が足を止め、新聞を読む姿が見られる。このように、学年の発達段階に応じて児童が日常的に新聞に親しむことができるような環境作りを行っている。



【6年教室前に掲示されている新聞】

(3) 新聞掲載された児童・生徒の紹介コーナー

職員室前に、新聞掲載された児童・生徒を紹介するコーナーが設置してある。宮崎日日新聞の「若い目」等に掲載された作文や習字、学校での出来事が紹介された新聞記事などを



【職員室前の紹介コーナー】

切り抜き掲示している。児童も立ち止まり、新聞掲載された作品等を、読むことができる環境作りを行っている。

3 学級での実践

(1) 社会科における新聞を活用した授業

第4学年の社会科では、県内の特色ある地域の様子について学習した。その中で、新聞からそれぞれの市町村の様子を探す学習活動を取り入れた。学習の流れは以下の通りである。

1 教科

社会科 「宮崎県をながめて」

2 ねらい

新聞から自分たちの住む県のそれぞれの市町村の様子が書かれた記事を探すことで、県内の市町村の様子についての興味をもち、理解を深める。

3 学習の流れ

- ① これまでの学習を振り返り、どんな市町村について学習してきたのか確認する。
- ② 学習のめあてをつかむ。

新聞から宮崎県の市町村についての記事を見つけよう。

- ③ 新聞から宮崎県の各市町村の出来事についての記事を見つけ、切り抜く。
- ④ 切り抜いた新聞記事を市町村ごとに分け、画用紙に貼る。
- ⑤ まとめた新聞記事を読み、各市町村での出来事について知る。
- ⑥ 本時のまとめを行う。

児童はこれまでに、県内の特色ある市町村について学習を行ってきた。しかし、県内の他の市町村についても興味をもってもらいたいと考え、本時の学習活動を設定した。

本時を行うにあたり、多くの新聞記事を集めることで市町村についてより深く知ることができると考え、地域の記事が多く掲載されている「宮崎日日新聞」を児童1人に1部ずつ配布し、市町村についての記事を見つけさせた。



【新聞から市町村の記事を見つける様子】



【市町村ごとにまとめた新聞記事】



【市町村ごとに分けられた新聞記事を読む様子】

(2) 新聞の読み比べ

11月から2月まで毎日2社の新聞を学級に置いた。毎月同じ日の新聞を読み比べる時間を設定した。実施方法は以下の通りである。

- ① 同じ日の新聞を2人に1部ずつ配付する。
- ② 2社の新聞を読み比べ、同じ内容が書かれている記事を探す。
- ③ その新聞にしかないコーナーを探す。
- ④ 各新聞の特徴を付箋に書き出す。
- ⑤ 出された特徴をもとに、各新聞の特徴についてまとめる。



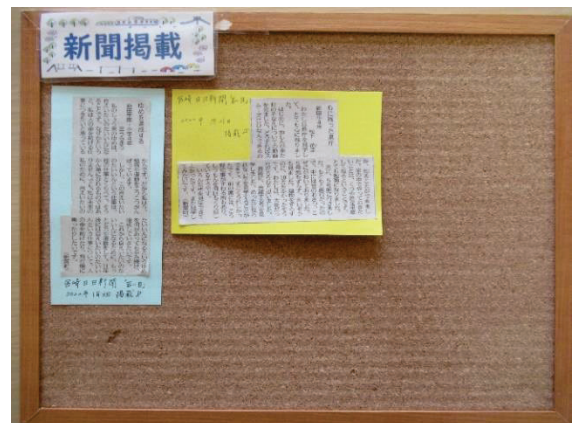
【2社の新聞を読み比べる様子】

各新聞についてまとめた画用紙は、購読終了まで教室内の新聞置き場に掲示し、いつでもその新聞について知ることができるようにした。また、各新聞のコーナー紹介を行い、子ども向けのコーナーについて紹介する場も設けた。

(3) 新聞投稿

月に1度程度、宮崎日日新聞の「若い目」への新聞投稿に取り組みさせた。書く内容は、学校行事や学級での出来事など題材を限定したり、将来の夢や習い事のことなど題材を自由に考えさせたりした。

新聞に掲載された作文は、学級内で読んで紹介するとともに、教室内の新聞置き場に掲示スペースを設け、いつでも掲載された作文を読むことができるように環境を整えた。



【新聞掲載された児童の作文】

4 実践後の児童の変容及び成果と課題

(1) 社会科における新聞を活用した授業

4年生の社会科の学習では、県内の特色ある市町村について学習してきた。児童は、自分の住む県についての興味・関心があまりなく、県内の市町村について知っていることもとても少なかった。

県内の市町村についての新聞記事を見つける際、はじめほどの記事を切り抜けばよいのか戸惑っている児童の姿も見られたが、次第に新聞に掲載されている写真や見出しを手がかりに、記事を選ぶ姿が見られるようになった。

県内の市町村ごとにまとめられた新聞記事を読む際、「この市町村は、〇〇が有名なんだね」や「このイベント、行ったことある」「この市町村行ったことある」など、切り抜かれた新聞記事をもとに、友達と感想を伝え合う場面が見られた。

この授業を行った翌日から、これまであまり新聞に興味を示さなかった児童が、新聞を手に取り、県内の市町村の様子を書かれた記事を見つけ、友達と話したり、見つけた記事の内容を教師に伝えたりする姿が見られるようになった。また、家庭にあった新聞から県内の市町村の記事を見つけ、切り抜いて持ってくる児童もいた。新聞に親しむとともに、県内の市町村についての興味・関心を高めるいい機会となった。

(2) 新聞の読み比べ

11月は「読売新聞」と「日本経済新聞」、12月は「日本経済新聞」と「毎日新聞」、1月は「毎日新聞」と「朝日新聞」、2月は「朝日新聞」と「宮崎日日新聞」を読み比べた。児童の中には、新聞社が違って、同じ日の新聞ならば、同じ内容の記事が掲載されていると思っていた児童もあり、各新聞を読み比べ、違いがあることに驚く児童の姿も見られた。

初めて読み比べを行った11月は、ただ2社の新聞を読んでいるだけであったが、何度か読み比べしていく中で、「〇〇新聞のこのコーナーは、子どもたち向けだね」や「この部分は、家族で読んで楽しめるね」など、各新聞の特徴を見つけながら読み比べる姿が見られるようになった。

この活動を行って以降、気になるコーナーだけを毎日読んだり、1面だけを読み比べたりと、新聞により親しむ児童が増えてきた。

(3) 新聞投稿

宮崎日日新聞の「若い目」への投稿は4月から行った。初めは、テーマをなかなか決められずいたり、文を書くことに戸惑っていたりする児童も多くいた。しかし、行事等の後に、その行事についての作文を授業内で書かせたり、家庭学習として取り組ませたりしていく中で、だんだんと書くことに慣れてきて、分量も増えてきた。

学級の児童の作文が新聞に掲載されると、「自分の作文も掲載されたい」との思いが強くなった児童も多く、意欲的に取り組む児童が増えてきた。また、宮崎日日新聞を購読している家庭の児童の中には、毎日若い目のコーナーを読む児童の姿も見られるようになった。

新聞に掲載されている児童の作文を多く読むことによって、表現の仕方がよりよいものになり、その表現を他教科等でも生かす姿も見られるようになった。

5 今後の課題

- 2021年度は、前年度の「他教科でも新聞を活用していきたい」という反省を生かし、社会科や総合的な学習の時間でも新聞を活用した。授業の中で、計画的に活用していくためには、単元計画をしっかり立て、日頃から新聞記事を収集しておくなど、準備をしておく必要があると感じた。また、他教科でも新聞を活用して、授業実践を行っていきたい。
- 新聞を購読している家庭が少なく、4月当初は新聞を家庭で読む児童はほとんどいなかった。9月から、学級内にNIE用の新聞を毎日置くことで、児童も少しずつ新聞を手に取り、読む姿が見られるようになった。今後も、学校内で新聞が置いてあるスペースを作るなど児童が進んで新聞に親しむことができるような環境を整えていくことが大切であると感じた。